

中山道を歩こう会

(日本橋～巣鴨)

京まで 69 次の中山道ですが、先ずは日本橋から板橋、蕨、浦和、大宮、上尾、桶川、鴻巣、熊谷まで歩きます。今回は日本橋から巣鴨まで歩きます。コースは約 8km と短いので、寄り道しながら行きましょう。

記

■日 時：平成 28 年 4 月 14 日 (木) 8 時 45 分集合

■集合場所：所沢駅西武新宿行ホーム 中央階段下

■見学場所及び時間：コース全長約 8 km

所沢駅(8:50 急行)⇒高田馬場 (東西線) ⇒日本橋 (東西線)
⇒日本橋、道路元標⇒三越前駅地下 熙代勝覧⇒かねやす
⇒昼食⇒追分の一里塚⇒大円寺⇒白山神社⇒巣鴨駅
⇒池袋経由 所沢 (15 頃帰着予定)

■交通費 (所沢から)：約 1,020 円

■昼食 チムニー本郷店 (居酒屋) 12:30～13:30

■散策先簡単ガイド

＜日本橋・魚河岸跡、道路元標＞

日本橋から江戸橋にかけての日本橋川沿いには魚河岸がありました。江戸時代初期から続いた魚河岸は関東大震災後に築地に移りました。

橋の中央には日本の道路の起点を示す道路元標が道路の真ん中にあり、その上空には道路元標の位置を示す柱があります。

本物の道路元標は見られないので日本橋の北詰にある「元標の広場」の移設された東京市道路元標と、日本国道路元標の複製を見ましょう。



日本橋は慶長 8 年 (1603) に架けられたのが最初で、現在の橋は明治 44 年に建てられたもので国の重要文化財に指定されています。彫刻は西洋的なデザインを主体としながら麒麟と獅子という日本的な

モチーフを取り入れています。また、柱の模様には一里塚を表す松や榎木を取り入れています。

日本橋は日本からトルコに至るアジアハイウェイ1号



線の起点にもなっています。日本橋の上を通る首都高にはアジアハイウェイの道路元標があります。



<三越駅：熙代勝覧>

三越前駅の地下に『熙代勝覧（きだいしょうらん）』の複製絵巻があります。原画はベルリン国立アジア美術館に所蔵されていますのでこの17mにもわたる絵巻物で200年前の日本橋の様子を見てみましょう。

<三井本館>

国の重要文化財に指定されている三井本館は**越後屋**（三越創業時の屋号）の跡地です。越後屋の三井高利は、延宝元年（1673）52歳の時に現在の日本銀行新館辺りに「越後屋」を開店し、正札販売により発展し江戸を代表する大店に成長した。ここには三井記念美術館（入場料1000円）もあります。

<筋違い見附跡>

筋違橋は現在の万世橋と昌平橋の間に架けられ、旧交通博物館建物のレンガ壁を突き破るような形で桁形の筋違橋門が築かれていました。

この筋違橋門は将軍が上野寛永寺や日光に出向く「御成り道」にあったので、御成門とも呼ばれていました。筋違の名称は、江戸城から上野寛永寺に続く御成道と、日本橋からの中山道が交差する場所なのでこう呼んだのだといえます。

<昌平橋>

寛永年間（1624～1644）の架設といわれている。この橋は、一口橋、芋洗橋（いずれもいもあらい橋と読む）、相生橋などの名で呼ばれていたが、聖堂建立ののち、孔子の生誕地の**昌平郷**の名を取って昌平橋と改められた。

<神田明神>

祭神：大己貴命（おおなむちのみこと）、少彦名命（すくなひこなのみこと）と平将門を祀る。江戸時代には神田明神と名乗ったが現在では神田神社。なお、神田はもと伊勢神宮の御田（おみた＝神田）があった土地、つまり神の田ということですね。

<東京都水道歴史館>

ちょっと寄り道をしましょう。東京都水道歴史館は神田上水や玉川上水などの江戸上水から、近代水道の創設、現在、の東京水道の歴史や技術を実物資料や再現模型、映像資料などで分かり易く紹介しています。

<かねやす>

「本郷もかねやすまでは江戸のうち」という川柳があります。その「かねやす」は、享保の頃（1716～36）兼康祐悦（口中医師＝歯科医）が開いた店で乳香散という歯磨き粉を売っていました。これがヒット商品となり、いつも祭りのように客が集まったといわれます。

「かねやす」の看板は堀部安兵衛の書いたものです。堀部安兵衛は近くに住んでおり能書家で「かねやすゆうげん」と書いた看板を見に人が集まったといいます。

<追分一里塚跡>

ここは日光御成道との分かれ道で、中山道の最初の一里塚があり、18世紀中ごろまで、榎が植えられていた。分かれ道にあるので、追分一里塚とも呼ばれてきました。

ここにある高崎屋は、江戸時代から続く酒屋で、両替商も兼ね「現金安売り」で繁昌しました。

<大円寺>

曹洞宗の寺で、開創は慶長2年（1597）といえます。山門正面に「炮烙（ほうらく）地蔵尊」が安置されている。頭痛や悩み事があるとき、炮烙を供奉祈願すると、願い事がかなうといわれます。炮烙は俸禄にも通じ、最近ではサラリーマンの姿も見受けられるようです。

炮烙地蔵は八百屋お七ゆかりの地蔵で、お七の大罪を救うため、熱せられた胞烙を頭に乘せ、お七の身代わりとして、焼かれる苦しみに耐える地蔵として安置されました。享保4年（1719）お七供養にと寄進したといわれています。

天和 2 年に大円寺から出火した江戸の大火（天和の大火）は、28 日正午ごろから翌朝 5 時ごろまで延焼し続け、死者は最大 3500 名余と推定されている。お七火事とも称される。

八百屋お七はこの大火によって避難した寺（吉祥寺とも円乗寺ともいわれる）の小姓と恋仲になる。やがて新居が再建され、お七はその寺を引き払ったが、寺小姓への想いが募るばかり。そこでもう一度火事が起きたら会えるかも知れないと、自宅に放火した。火はすぐに消し止められればやにとどまったが、お七は捕縛されて鈴ヶ森刑場で火炙りの刑に処せられた。

なお、史実としては「駒込のお七付火之事、此三月之事にて二十日時分よりさらされし也」との記録が残るだけで、八百屋かどうかも定かでない。

墓域には幕末の砲術家高島秋帆の墓（国指定史跡）、小説家であり樋口一葉を終生助けた斉藤緑雨の墓がある。

<白山神社>

創開は古く、天暦年間（947～957）に加賀一宮白山神社を現在の本郷一丁目の地に勧請したと伝えられる。

後に元和年間（1615～1624）に 2 代将軍秀忠の命で、巢鴨原（現在の小石川植物園内）に移ったが、その後五代将軍職につく前の館林侯綱吉の屋敷の造営のため、明暦元年（1655）現在地に再度移った。

この縁で綱吉と生母桂昌院の厚い帰依を受け、元禄 3 年（1690）社領 30 石の御朱印状を拝領しています。

境内に桜の老樹がある。永承 6 年（1051）八幡太郎義家が奥州平定の途中、この社に寄り、この桜に旗をかかげ、戦勝を祈願したといわれている。そこで、この桜を旗桜といい、明治 29 年（1896）石碑を建て旗桜記が記された。

明治 43 年（1910）5 月中旬、神社近くに住む盟友、宮崎滔天宅に寄遇していた孫文は滔天と共に、白山神社の境内の石に腰掛け、中国の将来と革命について語り合った。そのとき、夜空に光芝を放つ、一条の流星をみた。このとき、祖国の革命を心に誓った。新中国建設を誓った場所を後世に残そうと、白山神社の清水宮司を中心に町会有志が、孫文先生座石の碑を建立した。

<帰路>

巢鴨（山手線）⇒池袋（西武線）⇒所沢着 15:30 予定

以上